

① 東山手地区



東山手十二番館  
(旧居留地私学歴史資料館)



活水同窓会館



東山手地区町並み保存センター

② 南山手地区



南山手地区町並み保存センター



南山手レストハウス



長崎市須加五々道美術館



海フェスタながさき 関連事業

# 長崎港ゆらり文化財めぐり



③ 旧香港上海銀行長崎支店  
(長崎市旧香港上海銀行長崎支店記念館)



④ 旧長崎税関下り松派出所



⑤ 三菱重工「史料館」  
※見学は事前に電話予約が必要



⑥ 長崎税関 資料展示室(1階ロビー奥)  
長崎税関に関する史料や長崎港の主要輸出入品、覚せい剤などの密輸手口、コピー商品等を展示。



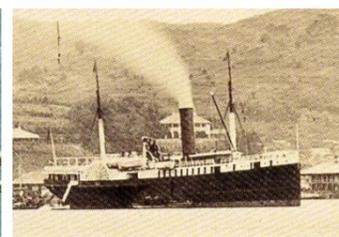
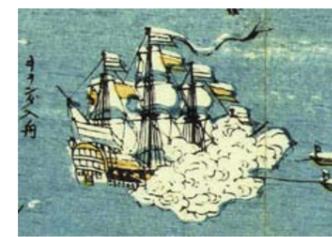
⑦ NTT「海底線史料館」  
※見学は事前に電話予約が必要



⑧ 国際海底電線小ヶ倉陸揚庫  
長崎市歴史民俗資料館に通信機材等の一部を展示。



長崎県女神大橋ホームページより



● 長崎港の歴史

長崎港は、元亀2年(1571)にポルトガル船が来航して以来、海外貿易港として著しい発展を遂げました。16世紀の終わり頃には、すでに南蛮貿易の港として栄え、また、江戸時代初期までは朱印船貿易の基地として、多くの外国人が渡来し、日本人が海外へと進出していきました。鎖国時代には、中国・オランダとの貿易港となり、海外との経済や文化の交流の窓口として大きな役割を果たしてきました。このことは長崎の町に経済的な恵みを与え、海外からもたらされた文化は市民の生活の中に溶け込み、今でも年中行事や文化財にその名残りを残すことができます。また、重要な貿易港であったことから、湾の内外には警備施設として番所や台場などが設置されました。幕末の開国を迎えた後も、長崎は海外貿易港として機能し、西洋の近代的な科学技術がいち早くもたらされ、造船業や石炭産業、水産業も大きく発展しました。明治以降、海外貿易の中心は横浜・神戸へと移っていましたが、上海航路の開設などにより中国大陸への玄関口として活況を呈しました。

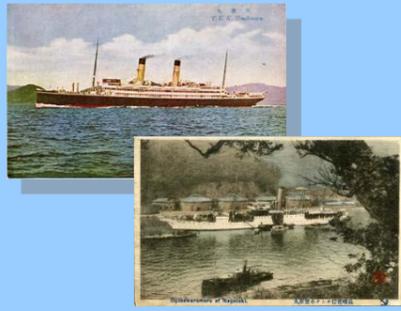
このように、他の都市には類をみない海外文化導入の門戸として栄えた長崎は、独特な文化の香り高い港町です。港内には、鎖国時代を偲ぶ出島和蘭商館跡や、旧外国人居留地の洋風建造物群、日本の近代化に大きく貢献し、今なお稼働している三菱重工長崎造船所の工場群など、歴史の証を数多く見ることができます。また、少し外港を眺めると、魚見岳台場をはじめとする防衛施設の遺構や、遠くは高島や端島などの海底炭鉱の島々など貴重な遺産があります。

● 長崎港に面した資料館・展示施設

開港以来、長崎港は随時埋め立てが行われるなどの整備がなされてきましたが、幕末以降には、居留地造成に見られるようにそのスピードは加速度的に進み、明治30年から明治37年にかけて実施された大規模な港湾改修工事によって、ほぼ現在の港内の海岸線に近い形へと変化しました。現在、長崎港の周囲に残っている歴史的建造物などが活用され、資料館などの展示施設として数多く公開されています。

## 近代化産業遺産群

造船業や石炭産業、通信業など、開国後の近代欧米技術・文化の導入に際して、長崎は先鞭的な役割を果たしています。港の両岸には、長崎のいち早い工業化・国際化を示す様々な産業遺



①三菱造船所工場群(産業景観)



②第1・第2船台  
造船所には、明治28年以降、大正5年までに6基の船台が整備され、昭和14年各船台にガントリークレーンが完備



③150トン固定式電動起重機  
英国マザーウェル・ブリッジ社から輸入し、飽ノ浦の艦装岸壁に設置されました。明治42年(1909)12月に完成しま

## ④ライジングサン貯油所



長崎港の西岸の先端、神崎鼻に明治初期に石油タンクが建設され、この施設が残されています。明治36年刊行の『長崎名所案内』には「神崎の鼻には石油タンクがありますが船からポンプで注ぎ込む仕掛

## ⑤出島岸壁



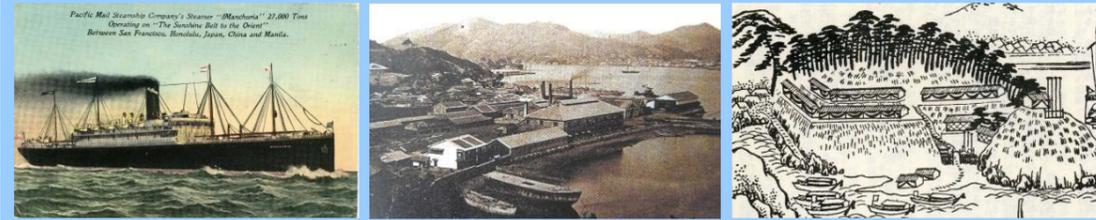
明治以降の長崎市にとって、大型船が接岸できる港湾施設を持つことが悲願でした。大正9年から昭和2年(1927)にかけて、出島岸壁と元船岸壁が建設され、日華連絡船、上海丸と長崎丸が就航しました。



●端島(軍艦島)

## 長崎港周辺の文化財

安政の開国により長崎港が新しい自由貿易港として開港され、長崎港を見下ろす南山手・東山手の丘や大浦海岸に外国人居留地が建設され、外国の領事館、事業所や邸宅などが次々に建てられました。現在も、国宝大浦天主堂や重要文化財旧香港上海銀行長崎支店をはじめ、



## ⑥小菅修船場跡

薩摩藩とT. グラバーにより明治元年(1868)に建設された、我が国初期の西洋式スリップドックで、「そろばんドック」と呼ばれています。ドックの形状、巻き上げ小屋、滑台、石垣等が残されており、黎明期の近代化遺産として貴重



## ⑦四郎ヶ島台場跡

港外の警備強化を推進した、長崎港の警備担当の佐賀藩が総力を挙げて建設した台場です。嘉永3年(1850)12月着工、嘉永6年(1853)に完成しました。



## 江戸時代の文化財

幕府は長崎港防備の必要性から寛永18年(1641)から福岡黒田藩、佐賀鍋島藩に交代で警備させることとして、港口の戸町、対岸の西泊に番所を設置しました。その後も長崎港を囲うように台場が築造され、現在でも国指定史跡長崎台場跡魚見岳台場跡や四郎ヶ島台場跡など往時



⑩魚見岳台場跡  
文化9年(1812)  
(増台場)  
国指定史跡



⑨戸町番所跡  
寛永19年(1642)  
県指定史跡



⑧高鉾島台場跡  
承応2年(1653)  
(古台場)  
文化9年(1812)



# 長崎港ゆらり文化財めぐり

## (1) 長崎港周辺の文化財

長崎港周辺には貴重な文化財となっている建物、構造物、施設が集積しており、長崎市の海から見る野外博物館となっている。江戸時代における外国船警備のための、番所や台場がある。幕末から明治期にかけての外国人居留地の建築物や遺構、近代の日本の工業化の発祥の地である官営長崎製鉄所から続く、三菱造船所の施設や構造物などがある。外国との通信のための海底電線に関する施設、外国航路のための岸壁などもあり、長崎が港で繁栄した往時を思い出させる。

長崎港周辺の近世(江戸期)からの文化財には、次のようなものがある。

- 1) 江戸時代の警備のための施設。番所、台場など。
- 2) 外国人居留地に関する文化財。旧グラバー住宅等の洋館など。
- 3) 三菱長崎造船所に関するもの。工作機械、クレーン、ドック、工場など。
- 4) 長崎港周辺の教会。大浦天主堂、マリア園、神の島教会など。
- 5) 近代化を支えた施設。出島橋、港湾施設、海底電線施設など。

長崎港周辺の文化財をこのように分類して、以下、簡単な解説を加えた。

## (2) 長崎港の御番所と台場

西泊と戸町に長崎港を警護する、西泊御番所と戸町御番所がそれぞれ寛永18年(1641)、寛永19年(1642)に造られた。承応2年(1653)に肥前国(平戸藩)により台場が建設された。これを古台場と云う。港内の台場が、太田尾、神崎、女神に造られた。また、港外の台場が、白崎、高鉾、長刀岩、蔭ノ尾に造られた。

その後、フェートン号事件を契機に、文化5年(1808)に新台場の建設が始まり、文化6年6月に完成した。この台場は新台場と云われ、寿々連(沙崩=すずれ)、女神、神崎、高鉾、蔭ノ尾に建設された。続いて、台場が強化された。これらを増台場と云う。文化7年増台場の建設が始まり、文化9年(1812)に完成した。神崎に3カ所、魚見岳に3カ所(国指定史跡)、高鉾に2カ所、長刀岩に3カ所造られた。

幕末の嘉永3年(1850)、伊王島・神ノ島に台場が建設された。最大のものが神ノ島・四郎ヶ島台場である。

現在見ることができる御番所と台場

- 1) 西泊御番所(西泊町)：寛永18年(1641)  
住宅開発のために、遺構は失われている。
- 2) 戸町御番所(国分町)：寛永19年(1642) (県指定史跡)  
県指定史跡となっている。
- 3) 神崎台場：承応2年(1653)～文化9年(1812) (古台場から増台場)
- 4) 高鉾島台場：承応2年(1653)～文化9年(1812) (古台場から増台場)
- 5) 蔭ノ尾台場：承応2年(1653)～文化6年(1809) (古台場から新台場)
- 6) 長刀岩台場：承応2年(1653)～文化9年(1812) (古台場から増台場)
- 7) 魚見岳台場：(国指定史跡)：文化9年(1812) (増台場)
- 8) 四郎ヶ島台場：嘉永3年(1850) (近代黎明期の品川台場に対応する台場)

### (3) 外国人居留地に関する文化財

安政5年(1858)、5カ国修好通商条約締結により、日本が開国、横浜、箱館(函館)と共に長崎も開港し、外国人居留地が建設された。外国人居留地は、明治32年(1899)に条約が撤廃されるまで続いた。

1) 東山手伝統的建造物群保存地区：指定日平成2年10月23日

活水学院本館、東山手十二番館、東山手洋風7棟住宅、旧英国領事館など19棟の建造物。石畳、側溝、石垣や樹木などの歴史的景観を保存する地域。

2) 南山手伝統的建造物群保存地区：指定日平成2年10月23日

大浦天主堂、グラバー邸内建築物、杠葉病院別館、マリア園、高木氏宅など34棟の建造物。石畳、側溝、石垣や樹木などの歴史的景観を保存する地域。

3) 旧英国領事館(国指定重要文化財)

建築年：明治41年(1908)、煉瓦造2階建

上海から英人技師ウィリアム・コーワンを招いて建設した。長崎に現存する唯一の領事館建築物である。

4) 旧長崎税関下り松派出所(国指定重要文化財)

建築年：明治31年(1898)3月、煉瓦造平屋建

小規模であるがまとまった建物で、付属の便所、敷地を囲む煉瓦塀等、明治時代の税関施設の状況をよく伝えている。

5) 旧香港上海銀行長崎支店(国指定重要文化財)

建設年：明治37年(1904)

下田菊太郎が設計した、現存する唯一の遺構である。長崎市の洋館の中で最大級のものである。明治中期の長崎市の繁栄を象徴する銀行建築物である。

6) 大浦天主堂(国宝)

建設年：元治2年(1865)、煉瓦造1階建、正面しっくい塗

フランス人宣教師フューレ、プチジャン両神父により建てられた。わが国で現存する最古の教会である。

7) 旧羅典神学校(国指定重要文化財)

建設年：明治8年(1875)、木骨煉瓦造、3階地下1階

明治6年明治政府のキリスト教禁教令廃止を契機に、大浦天主堂のプチジャン神父はラテン神学校設立を計画し、明治8年に完成した。大正15年(1926)浦上神学校ができるまで使用された。

8) 旧グラバー住宅(国指定重要文化財)

建設年：文久3年(1863)、木造平屋建

英人トーマス・グラバーが接客用として、風光明媚なこの地に木造洋館を建てた。南山手の先端にあり、高燥で湿気の少ない場所を選んだ。長崎市内がパノラマ状に広がり、長崎市が最も美しく見える場所である。

9) 杠葉病院別館(旧レスナー邸)(伝統的建造物)

建設年：明治16～35年(1833～1902)、木造2階建

ユダヤ人であったシグマント・デービット・レスナーの住宅。レスナーは長崎に来て、貿易、雑貨商、オークション業を営み莫大な財産を築いた。

10) 幼きイエズス修道会(マリア園)(伝統的建造物)

建設年：明治31年(1898)、煉瓦造3階建

大浦天主堂を建てたプチジャン神父の要請によりフランス「幼きイエズス修道会」は明治13年11月に、大浦海岸通り5番地に修道院を建設した。明治31年7月19日、清心女学校と改称、修道院と共に

に、南山手 16 番地に新築移転した。明治中期の長崎を代表する本格的な煉瓦建築物である。

#### (4) 三菱長崎造船所に関する文化財

徳川幕府が万延元年(1860)に「長崎製鉄所」を設立した。明治 4 年(1871)工部省の所管となり「長崎造船所」と改称された。明治 17 年(1887)に官営を民営に移すことになり、三菱経営の下に「長崎造船所」と改称して業務を開始した。

##### 1) 150 トン固定式電動打重機 (登録有形文化財)

建設年：明治 42 年(1909)12 月

英国マザーウェル・ブリッジ社から輸入し、飽ノ浦の艀装岸壁に設置したものである。高さ 61m、ジブの長さ 73m、打重量 150 トンと云われている。

##### 2) 立神船台とガントリークレーン

船台は明治 28 年(1895)以来整備された。大正 5 年(1916)までに 6 基の船台が並び、各船台にガントリークレーンが完備されたのは昭和 14 年である。戦艦武蔵は第 2 船台で建造された。現在、第 2 船台の 1 連だけが残されている。

##### 3) 三菱資料館(旧鑄物工場併設木型場)

建設年：明治 31 年(1898)7 月、煉瓦造 2 階建

三菱合資会社三菱造船所鑄物工場に、木型工場として明治 31 年 7 月に併設された。三菱重工発祥地に現存する最も古い建物である。

##### 4) 豎削盤(国指定重要文化財)

建設年：安政 3 年(1856)

オランダ、ロッテルダムにあるオランダ汽船会で製造された。平面加工、溝、軸穴加工を行う工作機械がある。日本最初の洋式工場で使われた、我が国に現存する最古の工作機械である。

##### 5) 向島第 3 ドック(立神第 1 ドック、飽ノ浦第 2 ドック)

建設年：明治 38 年(1905)

明治 12 年(1879)、当時東洋一と云われた第 1 ドックが立神に完成した。続いて、明治 29 年(1896)に飽ノ浦に第 2 ドックが完成した。明治 38 年(1905)に、建設された第 3 ドックのみが残っている。

##### 6) 占勝閣

建設年：明治 37 年(1904)5 月

曾禰達造により設計された。三菱長崎造船所所長室として建てられたが、使用されず迎賓館となった。日本人設計者による明治後期の英国系洋風建築として格調の高い建物。

##### 7) 小菅修船場跡(国指定史跡)

建設年：明治元年(1868)12 月

日本最初の洋式近代ドックである。T・B・グラバーらにより、明治元年(1868)12 月に落成した。建設は日本最古の煉瓦造でコンニャクレンガを使用している。25 馬力の捲上蒸気機関は英国製の創立当時のものである。

#### (5) 近代化遺産

安政 5 年(1858)の開港以来、長崎港は近代港を目指して戦前まで 3 回の港湾事業を行った。この工事により長崎の地形は大きく変わった。

・ 第 1 次長崎港改修事業：明治 18～22 年(1885～1889)

出島の開削と中島川の変流工事、出島橋の建設。

・ 第 2 次長崎港改修事業：明治 30～37 年(1897～1904)

出島前面の埋立、JRヤードから江里町一帯の広大な埋立、稲佐沿岸の埋立。

・第3次長崎港改修事業：大正9年～昭和2年(1920～1927)

出島岸壁，元船岸壁，日華連絡船の就航(大正12年(1923))。

長崎港周辺にはこれらの遺構が残されている。また，明治初期には，中国，ロシアと距離が近い  
ために，海底電線が長崎に敷設され，関連する施設が残されている。

#### 1) 出島橋

建設年：明治12年(1890)，明治43年(1910)現地に移築

中島川変流工事に伴い，中島川の川口に明治23年(1890)新川口橋が架設された。材料をアメリカから輸入した，プラットラス形式の錬鉄の橋である。明治22年(1889)に架設された木鉄混合橋の出島橋が老朽化したために新川口橋が出島橋の後に，明治43年(1910)に移築された。現在供用中の道路橋の中で最古のものであり，国指定重要文化財級の長崎が語る代表的近代化遺産である。

#### 2) 中島川変流工事(第1次長崎港改修事業)

工事年：明治18年(1885)～明治22年(1889)

第1次長崎港改修事業により，中島川と出島の背後に変流した。この工事が明治18年～明治22年(1885～1889)にかけて行われた。明治政府の3番目の港湾工事である。オランダ人のお雇い外国人，デ・レーケの指導による。このとき，出島は平均10間(約18m)削られた。

#### 3) 第2次長崎港改修事業による埋め立て地

工事年：明治30年(1897)～明治37年(1904)

当時九州鉄道の長崎駅は，現在の浦上駅であった。鉄道を市街地中心部へ引き，港湾施設と連続化することを主要な目的として，第2次長崎港改修事業が行われた。長崎駅を現在の場所へ建設するための埋立，出島全面の埋立，茂里町一帯の埋立，さらに稲佐の埋立など，現在の長崎の骨格を形成する大規模な埋立が行われた。その当時の護岸を見ることができる。

#### 4) 稲佐岸壁と防波堤

工事年：明治36年(1903)～明治38年(1905)

第2次長崎港改修事業の一環として，稲佐の埋立と岸壁の工事が行われた。また，突堤(防波堤)が造られた。これらの構造物を今でも見ることができる。

#### 5) 長崎港出島岸壁

工事年：大正9年(1920)～大正13年(1924)

外国航路用大型船舶を接岸できる港湾施設を目的として，第3次長崎港改修事業が行われた。出島沿岸230間(414m)，幅約25間(45m)，水深9mの係船岸壁を建設した。現在の出島岸壁である。大正12年(1923)5月，日華連絡船長崎丸が就航し，続いて上海丸が就航した。港町長崎として長崎は繁栄した。明治以来，長崎市民と長崎財界が全力を投入して建設，栄光の長崎の繁栄の象徴であった出島岸壁は，無残にも破壊されようとしている。

#### 6) 長崎港元船岸壁

工事年：大正11年(1922)11月～昭和2年(1927)

第3次長崎港改修事業の一環として，建設された。現在の元船岸壁である。護岸の石積みが美しい。近海航路用の岸壁として造られた。昭和5年(1930)長崎臨海線が開通し，長崎港駅が営業を始め，列車からすぐに日華連絡船線に乗り込めるようになった。

#### 7) 国際海底電線小ヶ倉陸揚庫(県指定史跡)

建設年：明治29年(1871)，煉瓦及び石造平屋建

明治4年2月，デンマークの大北電信会社が建てた外国通信のための海底船中継所。

#### 8) NTT 海底線資料館

建設年：明治29年(1896)7月，煉瓦造平屋建

陸軍省が建設し，通信省へ移管された。この建物は，蒸気機関，ポンプ，ケーブル等，ケーブル敷き設船に海底線を積み下ろしする電源舎として使用された。現在 NTT 長崎海底線工事タンカー内にあ

る。昭和 52 年海底線史料館として開館している。

#### 9) ライジングサン石油タンクと煉瓦造建物

建設年：明治初期

「神埼(かんざき)の鼻には石油タンクが有りますが船からポンプで注ぎ込む仕掛けになって居ます。また西泊にはケーブルタンクと申して逡信省の海底電線の貯蔵場があり升(ます)これも出し入れの時は随分見物で日本には此処一カ所です」長崎市名所案内(明治 36 年 10 月刊)

#### 10) 長崎浪平小学校

建設年：昭和 6 年(1931)、鉄筋コンクリート 3 階建

浪平小学校は明治 13 年(1880)に設置された。昭和 26 年(1931)鉄筋コンクリート造で建設された。三菱長崎造船所を望める高台にあり、戦時中は軍監視所が屋上に設置された被爆遺構である。

#### 11) 佐藤家住宅と石造倉庫(登録有形文化財)

建設年：明治元年(1867)～明治 15 年(1882)

煉瓦積みの壁面と石造倉庫が残されている。

## (6) 長崎港周辺の教会

江戸以前の戦国期には、長崎は一時教会領であった。禁教下にあった江戸期において、潜伏キリシタンにより信仰が守り継がれたために、禁教令が解かれた後、長崎市周辺の集落に教会が建設された。特に、港周辺の集落毎に教会をみることができる。

#### 1) 神の島教会

建設年：明治 32 年(1897)9 月、煉瓦造平屋建

明治 9 年に建てられたが、白蟻の被害のために、明治 32 年 9 月、現在の煉瓦造平屋建表面モルタル仕上げに新築された。明治中期の頃の長崎市を代表する教会である。

#### 2) 飽ノ浦教会

建設年：昭和 40 年(1959)

新しい教会。

#### 3) 馬込教会

建設年：昭和 6 年(1931)、鉄筋コンクリート造

昭和初期に建てられた教会。

#### 4) 幼きイエズス修道会(マリア園)

建設年：明治 31 年(1898)、煉瓦造 3 階建

大浦天主堂を建てたプチジャン神父の要請によりフランス「幼きイエズス修道会」は明治 13 年 11 月に、大浦海岸通り 5 番地に修道院を創設した。明治 31 年 7 月 19 日、清心女学校と改称、修道院と共に、南山手 16 番地に新築移転した。明治中期の長崎を代表する本格的な煉瓦建築物である。

#### 5) 高鉾島

殉教の島として、外国人に有名であった。古写真に多く撮影されている。

## (7) その他

長崎港の先端、神の島、木鉢周辺は、戦後大規模な埋立により地形が大きく変わった。昭和 8 年の鳥瞰図より、当時の地形を見ることができる。神の島、鼠島、香焼の陰ノ尾島など、現在では陸続きになっている。

#### 1) 鼠島海水浴場

「鼠島は大層景色の好い処で夏になると海水浴に出掛ける人が沢山あります、ここのは明治 24 年こ

ろ海水浴場が出来ましたが久しく絶えていたのを 36 年の夏瓊浦遊泳協会というものが出来遊泳術を教授するのでなかなか盛んです。」長崎市名所案内(明治 36 年 10 月刊)

## (8) 長崎市近代化遺産野外博物館

明治から昭和戦前期の長崎は、西日本の中枢都市として繁栄してきました。そのために膨大な予算が投入され、当時最先端の都市施設が建設されました。これらの構造物が町の至る所に残されています。文化財の分類では、明治から昭和戦前期の土木構造物で日本の近代化を支えてきた構造物を、「近代化遺産」と呼び、文化庁は国指定重要文化財や登録文化財として保存・活用しようとしています。長崎市は全国に誇れる近代化遺産の宝庫です。これまで洋風建築物が観光の焦点となってきましたが、近代化遺産が次の観光の焦点として、全国的なブームとなってきました。そのために、次々に重要文化財として指定されています。

長崎市には、国指定重要文化財級の近代化遺産が数多くあります。長崎市民の歴史の足跡として、また日本の近代化を進め現在の反映した日本の礎となった、長崎市の近代化遺産を市民の財産として保存しましょう。

- (1) 本河内高部水道施設：日本最初の水道ダム。全国に知られたすばらしく美しいダムです。
- (2) 出島橋：アメリカから輸入された現在供用中の最も古い道路橋。近代の形式を残し、デザイン的にも優れた道路橋。
- (3) 西山ダムと本河内低部ダム：わが国 3 番目の水道ダム、コンクリートダムとしては 2 番目。

### 参考文献

- (1) 小林勝著：長崎明治洋館，平成 5 年 8 月
- (2) 長崎市教育委員会編：長崎市の文化財，平成 10 年 3 月
- (3) 長崎県教育委員会：長崎県の近代化遺産，平成 10 年 3 月
- (4) 長崎名所案内，明治 36 年 10 月
- (5) 吉田発三郎画：景勝の長崎(鳥瞰図)

長崎大学教授 岡林隆敏氏提供